

中原通信



文責 増永 善久



目標について

新年にあたり、新たな目標を立てた子どももいると思い、冬休み明けの集会で子どもたちに目標について3つの話をしました。1つ目は、目標に向かって「失敗をこわがらず、挑戦してほしいこと」、2つ目は、「その目標を常に意識してほしいこと」、3つ目は、「目標が決まっていない人は、目標が見つかる時に備え、自分の可能性を伸ばしてほしいこと」です。特に、2つ目の目標を意識することについてくわしく話をしました。目標を立ててすぐは、目標を頭において行動するでしょう。しかし、しばらくしたら目標は頭から離れてしまうことがあるのではないか。目標達成のため、何をしているのかが、分からぬ場合があるのではないか。このようになことはおこりがちです。だからこそ、常に目標を意識しておいてほしいと思います。目標を意識していれば、目標を達成するための一つ一つの取組が、何がよかったですか、何が悪かったのかがわかり、よくするために、次は何をすればいいかを考えて行動するようになると思います。この自分で考えて取り組むことが大切だと私自身は考えています。私自身も、ややもすれば無意識に取り組むことが多い気がします。自分自身を戒めるためにも子どもたちに目標について話をしたところです。



町プレゼン大会より

2月1日（土）に「自分の考えをまとめ、資料を整理して伝える技術を向上させる」「未来の担い手として必要な資質・能力『4C』（コミュニケーション[自分の考えを伝える力]・クリエイティビティ[創造力]・コラボレーション[協働できる力]・クリティカルシンキング[自分で考え、結論に到達する力]）の育成」「ICT技術の向上」「南小国町を担う意欲づくり」などを目的として、南小国町小・中学生プレゼンテーション大会が開かれました。本校からは3名の児童が出場しました。低学年の代表は、「ぼくのプロジェクト」と題し、生活科の町探検から地域の皆さんにお世話になっていることに気づき、自分に何かできることはできないかを考え発表しました。中学年の代表は、「協力してきれいな南小国町に」と題し、身の回りにあるゴミの現実から、自然豊かな南小国町を守っていくために考えたことを発表しました。高学年の代表は、「人との関わりを大切にして、よりよい南小国町へ」と題し、南小国町の人口減少による経済問題に視点をあて、人口を増やすために自分にできることをお仕事図鑑の学習やナカバルツクル会の活動から考え、発表しました。3人とも、ふだんの学習から課題を見つけ、必要な資料を集め、課題を解決するために「自分は何ができるか」をしっかり考えていました。また、その考えをプレゼンの形に的確にまとめており、素晴らしい発表をしてくれました。



会場での発表



発表した3人



校内での視聴

災害を考える

能登半島地震から1年が経ち、また、1月13日には宮崎県で震度5弱の地震もおきました。宮崎での地震はびっくりした児童もいたのではないか。生活するうえで、命を守る、安全に暮らすことが一番大事です。特に災害が多い日本では、災害に備え命を守ることは大切です。6年生には、「通学中に大きな地震が起きたときどのように対応するか考えていますか？」と投げかけてみました。もし災害が起きた場合、被害を最小限に抑えるため、日頃から備えておくことが必要です。命を守るために、学校でも、繰り返し、防災・減災について話をしていきたいと思います。

※保護者の皆さんには、本年も昨年同様、学校へのご支援・ご協力よろしくお願いします。